

第 1714 回例会報告

令和3年11月11日(木)曇りれ

会長挨拶

『日本で初めてロータリークラブを創った人「米山梅吉」に思う事』

会長 小口直久

米山梅吉さんは、明治が始まった1868年、東京に生まれました。生まれてすぐに父親が亡くなり、母親の実家があった静岡で育ちます。12歳のときには、地元の名士の米山家(米山梅吉の旧姓和田)に養子に入りますが…16歳で新聞記者を目指して単身で上京。電車などない時代ですから箱根の山を歩いて超えて、東京までたどり着いたといひます。東京では苦学しながら英語などを学び、もっと見識を広めたいと二十歳のときにアメリカ行きを決意し海を渡ります。

当時、留学といえば、イギリスやドイツでしたが…アメリカには働きながら学べる学生のための「留学制度」があって、この制度をつかって…寝る間を惜しんで働き、学んだそうです。帰国後は、縁があって大手の三井銀行に入ります。すぐに頭角を現して、数々の業績を上げて成功します。そしていつしか「財界に米山あり」と呼ばれるまでになるのです。

ところが…大銀行の取締役にまで出世を果たした米山梅吉さんは、働きざかりの46歳にして、周囲をあっと思かせるような考えを論文にして発表します。

それは、「成功して名前が世に出るといひのは人生のまだ半分で、それだけでは何の価値もない。そう

なったら次は、潔く後輩に席を譲って、これまでの経験とお金のすべてをつぎ込み社会に奉仕する。それが花開いたときに初めて…意味のある人生となる」というものでした。

『新・隠居論』と名づけられたこの論文を読んだ当時の財界人たちはびっくり仰天したといひます。さらに、人を驚かせたのは…その論文どおり実際に行動したからでした。

米山梅吉さんが行った社会奉仕は、枚挙に暇がありません。後に青山学院の初等科となる学校を私財を投げ打って設立したり、財団を通して、結核の薬を開発する研究所を設立。また、貧困にあえぐ農村の援助のほか、ハンセン病患者への支援物資を持って、みずから全国の病院を訪ねて歩くなど…多岐に渡っています。

その中の1つが、1920年(大正9年)「東京ロータリークラブ」の創設だったのです。東京ロータリークラブの初代会長米山梅吉さんは、関東大震災で被災した人への支援を始め、数々の社会奉仕を行ってきていますが…

当時の米山梅吉さんが最も力を入れたことの1つが、お金のない学生を支援する福祉事業です。自分が苦学を重ねた経験もあったことから、ひと際、力を入れて支援を行ったと言われています。

米山梅吉さんの学生への支援活動には、こんな話が残されています。社会奉仕活動を始めた頃の米山に、ある人を介して「困っている学生の話」が来ました。優秀な成績を修めながら、経済的な理由で大学へと進学できないでいるといひのです。米山梅吉

♪出席報告		♪ニコニコBOX		♪今週のこトバ
会員数	37人	7人	16,000円	11月9日で、結婚52年になりました。二人でお祝いをしました。小松孝弘 49回目の結婚記念日を迎えました。孫は内外で5人。そのうち二人は成人、高3、高2、中2 それぞれ一人です。おかげさまで皆んな元気にしています。小林聖仁 本日はよろしくお願ひいたします。片倉久尚 本日はお忙しい中、つつじが丘学園の柳沢勇様をお招きいたしてあります。日頃の子供たちの様子をお伺いしながら、話を楽しみにいたしてあります。本日はよろしくお願ひいたします。小口直久 本日1714回例会、社会福祉法人つるみね福祉会 児童養護施設つつじが丘学園 主任指導員の柳沢様の卓話となります。どうぞよろしくお願ひします 宮坂英貴
出席対象	36人	累計	210,000円	
出席者数	23人	目標額	60万円	
出席率	63.9%	達成率	35.0%	
前回修正	69.4%			



は、快く支援を申し出て、月々の援助を始めます。
しかし海外へ行ったときのこと...

船が悪天候に巻き込まれて…あわや座礁か、という危険な目にあったのです。その生きるか死ぬかのときに、米山梅吉さんの脳裏に浮かんだのは…学生への支援のことでした。危機を乗り越えて帰国した米山は、「私にもしものことがあつては、学業の道が途絶える」そう言って、卒業までに必要な額をすべて用意して渡したそうです。

米山梅吉さんはこの支援を始めるとき、「1つの条件」を出しています。それは「相手の学生に、自分の名前を決して知らせないこと」。

これに限らず、米山梅吉さんの行った広い範囲に渡る、数々の奉仕は、そのほとんどが匿名でした

米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した米山梅吉さんの功績を記念して発足しました。1952年に東京ロータリークラブで始められたこの事業は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年、文部省（現在の文部科学省）の許可を得て、財団法人 ロータリー米山記念奨学会となりました。世界の平和を願って…なぜ留学生支援なのか「今後、日本の生きる道は平和しかない。それを アジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」事業創設の背景には、当時のロータリアンのこのような思いがありました。

今回改めて米山梅吉さんの人生と奉仕に対する思いに触れ、熱い思いがこみ上げてきました。幼少ころから決して裕福な家庭でなくひたすら努力し、才能もあったでしょうが、それ以上に仕事に対する思い、奉仕に対する思い、そしてロータリーに対する思いから、多大な功績に繋がったのかと思います。

◇幹事報告◇

【連絡事項】

11月28日の米山梅吉記念館旅行の出欠連絡をお願いいたします。回覧いたします。

【受領文書】

1. 第50回ロータリー研究会記念講演会の案内が来ました。回覧いたします。資料が必要な方は事務局へお問い合わせください
2. 大津中央ロータリークラブよりウィークリーが届きました

今月の結婚祝



8月から11月までの結婚お祝いを一気に行いました。おめでとうございます



左から、小口直久さん、山崎勝彦さん、小林聖仁さん、林洋三さん、高林一紀さん、平山隆勇さん、小松孝弘さん、望月勉さん、太田淳也さんでした。

第 1714 回例会

『つつじが丘学園の高校進学事情など』

つつじが丘学園指導員の柳澤勇 様

担当 青少年奉仕委員会

当クラブの継続事業であるつつじが丘学園支援活動(賛助金贈呈)にあたり、講師につつじが丘学園指導員の柳澤勇氏をお招きし、児童が未来に向けてどのような進路を考え職業を求めていくのか現状をお聞きました。

卓話では学園児童を取り巻く様々な環境原因によって精神疾患が増えており、進学や就職は言うまでもなく社会生活が困難になっていることも増えているとのこと

でした。また、国の方針から少人数制を施設に求めている状況により、施設の改善はもちろん、対応するには施設職員を増やさないといけないのですが、人が足りていないのが現状だそうです。今回の例会では進学状況やメンタル状態など今後の課題を知る良い機会になりました。

このような視点を踏まえて、今後も奉仕活動に取り組みたいと思います。



卓話終了後、例年通り賛助金を贈呈いたしました